

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

豊田スタジアムでの開催決定以降、街づくり等を通じて準備を進めてきたラグビーワールドカップは、台風の影響により1試合は中止となったものの、日本代表チームの活躍も相まって、大成功のうちに閉幕を迎える事が出来ました。

そして、愛知では新たに開催が決定した世界ラリー選手権や2022年に開園予定のジブリパーク、2026年のアジア競技大会、そして2027年度中に開業予定のリニア中央新幹線など、ビッグプロジェクトがまだまだ控えておりますので、これらの事業を通じて、活力と持続力を兼ね備えた大都市圏の形成を目指してまいります。

また、本県は製造品出荷額等が41年連続で全国No.1と、日本のモノづくりを支える地域であります。今後20年の間には、ロボット等が人間と同等以上の機能を持って社会実装されるなど、最先端のデジタル技術と現実の社会経済活動の融合が一層進展するものと見込まれています。

こうした状況を踏まえ、9月議会では「本県産業のイノベーションの推進」をテーマに一般質問を行い、大村知事からは、イノベーションの重要な担い手であるスタートアップの創出・育成・誘致について、中核支援拠点を新たに整備することで、優れた企業・人材等呼び込むとともに、本県モノづくり産業との連携・融合を図り、本県が国際的なイノベーションの拠点として発展していけるよう努めるとの答弁がありました。

この支援拠点は愛知県勤労会館跡地（鶴舞公園横）に2021年度中に開設予定ですが、残念ながら国内外からの本県のスタートアップに関する期待度は決して高く無いため、この支援拠点を核として、産業イノベーションの推進が更に図られるよう、引き続き後押しして参ります。



愛知県議会議員

こ た ま よ し か ず

樹神 義和 